



すたち

徳島大学附属図書館報 No.48

1993.10

目 次	
大学図書館の活性化	1
〈私の研究 シリーズ7〉	
拡散係数とのお付き合い	3
〈私の薦める一冊の本〉	
これから結婚していく若者たちに	
ぜひ読んでほしい一冊の本	5
〈利用者の立場から〉	
私にとっての蔵本分館	7
私にとっての図書館	8
夢	9
〔図書館情報〕	
NACSIS-IRについて	10
〔図書館案内〕	
第40回国立大学図書館協議会総会	13
目録システム講習会	14
NACSIS-IRシステム講習会	14
図書館の活用法(その二)	15
1994年版新規購読及び購読中止	
学術雑誌等一覧	19
会 議	26
人事往来	27

『大学図書館の活性化』

北 村 武 夫

今年6月に第40回国立大学図書館協議会総会を本学図書館が当番校として開催した。これは、国立大学99校の館長、事務(部・課)長ほか、文部省、学術情報センター、国文学資料館から総計260名の参加のもと、研究集会及び分科会などが行われた。

研究集会のテーマは、「大学図書館の活性化 -- 自己点検・自己評価とその活用 --」であった。発表の中の一つに、大阪大学附属図書館情報管理課長郡司良夫氏から大阪大学が主査館となって取りまとめた「自己評価基準検討委員会」で作成された基準が報告された。報告では大学図書館に求められるものとして大きく分けて、第1に情報検索の窓口強化、第2に一次情報の収集提供の機能強化、第3に所在情報のデータベース形成から成りこの中の機能を更に8分割にされて挙げている。

この8項目にしたがって、本学図書館が現在進めている自己点検評価の現状とを比較しながら述べて見る。

1. NACSIS-ILL(図書館間相互貸借)システムが円滑に機能するための業務処理方法の改善

学術情報センターが全国の大学図書館間を結んで文献複写及び図書貸借サービスを電子的手段によって行っているもので、本学の平成4年度の実績として受付件数では、全国で1桁代の上位にランクされ、蔵本分館の医学系では、医学系の外国雑誌センター館に次いでその件数が多い。この様にILL機能は十分発揮されているが、学内LANが完成すれば研究室からも申請手続きすれば検索が直接できるようになり、利用拡大が図れる。また、ローカルシステムを導入し、処理方法の簡素化を図る必要がある。

2. 電子図書館システムの開発導入、電子的な情報、資料収集、利用環境の整備

昨年度、本館、分館のそれぞれに情報検索コーナーを整備し、本格的な情報検索の利用環境の整備を行った。資料収集については、利用頻度の高い順に収集しているが、予算が少ないため十分ではない。

3. 学内LANを活用した学内図書館システムの連携強化、学術研究情報ネットワークを介した大学間協力の促進

現在スタンドアロンでのCD-ROMの検索は行っているが利用効率は悪い、すでに各大学では、CDサーバを利用した複数利用、更に学内LANを利用したネットワーク環境下での利用が行われている。

本学は、本年度CDサーバの予算を確保し購入の予定である。更に全学的な学内LAN設置が補正予算で認められ現在敷設工事が進められている。このように学内LAN利用の学術情報提供環境は着々と進められている。今年度末からは、研究室の端末から直接CD-ROM、MEDLINEの検索が可能となる。その外NACSIS-IR、JOIS等の情報検索にも積極的な利用体制が取れるようになる。

4. 大学の特色に応じた計画的、重点的な資料収集

特に本館には基準はなく担当者が収集している。これからは特色ある収集方針のもと長期的な収集計画を立案して行く。なお、蔵本分館には、基本方針はあるが、これは一般的な内容で特に特色ある収集方針になっていない。

5. 利用の実態を踏まえた資料の効果的な保存システムの検討

大学図書館の共通の問題として、書架及び書庫は満杯の状態にある。そこで協議会が調査研究班を設け検討している、その一つが「保存図書館構想」ともう一つが「資料の効果的な保存システム」について審議している。

これによって方針等が示され方向づけが明確になるので、本学図書館もこれを踏まえて検討して行かなければならない。

6. 留学生に配慮したサービスの充実

現在留学生は99名(10月1日)が在学している、これに対する図書館の対応は遅く昨年ようやく小規模ながら整備に着手した。文部省の留学生10万人計画が進められている折から益々留学生は増員される。図書館ばかりの努力ではどうにもならず学内の理解を求め財政措置等をお願いして行かなければならない。

7. 市民への開放サービス、生涯教育に対応したサービスの充実

一般市民の生涯学習、企業等の学術資料の利用は年々増えてきている。資源の有効利用を図る上からも図書館利用は不可欠である。図書館には、大学図書館、公共図書館、専門図書館とそれ

それぞれの役割がある。したがってそれぞれの役割を踏まえて連携を取りながら利用拡大を図って行く必要がある。

8. 情報化等のニーズに応え適切なサービスを提供するための人材確保、研修機会の充実、施設面の改善充実方策の検討

図書館サービスの総合的なものになるわけであるが、人材は、定員外職員（非常勤）が全体の46%でありより良い人材確保が難しく後継者育成が困難な状況に置かれている。また、非常勤の人件費が図書館維持費の56%を占めており財政の圧迫にもなっている。研修については、機会ごとに極力参加できるよう努力している。

施設面の改善充実方策については、蔵本分館の書架を整理し閲覧スペースの拡張を図り42席の閲覧席を増設した。また、分館の基準面積の不足分 600 m²の増築を平成6年度の概算要求として行った。

以上述べて参りましたが、総論として明るい見通しは、学内LANの完成に伴う学術情報サービスの向上が図れるぐらいで、その他の事項については、これからさまざまな努力を重ね、学内での図書館の地位向上に努め信頼される図書館を目差して行きたいと思っておりますので、ご支援をお願いする次第である。

（附属図書館事務部長）

『私の研究 シリーズ7』

『拡散係数とのお付き合い』

生田 信皓

直流電界下、気体中の電子やイオンは、電界による加速と気体原子・分子との衝突の繰り返しの中で流動平衡状態を形成し、この流動平衡状態で移動速度・拡散係数などの輸送特性が測定され議論されている。これはBeam実験が困難な程低いエネルギー領域(1 eV以下)での電子・イオンと中性気体原子・分子の衝突断面積を実験的に求めるには、電子やイオンの群(swarm)の輸送特性の測定値からボルツマン方程式を解くなどして断面積を逆算する以外に方法がないことによる。

私が電子の輸送特性を追いかけ始めてからもう20年近くになる。先人の教えを畏れかしこみ勉強している中に、次第に矛盾を感じるようになってきた。その一つに、電子・イオンの拡散係数Dがある。拡散係数は拡散粒子の二次の位置モーメント(分散値)の時間微分 $d\langle R^2 \rangle / 6dt$ (三次元)で定義され、粒子密度に勾配がある時拡散による流れを作る。拡散係数は古典理論ではEinsteinの関係式をうまく説明できるよう(?) $D = \langle v^2 / 3 \nu_m \rangle \dots [1]$ で与えられている。

しかし1969年に拡散係数の異方性が実験的に見いだされ、Einsteinの関係式は縦拡散係数に対応して補正を余儀なくされたが、横拡散係数については[1]式の値でそのまま成立すると説明されてきた経緯がある。横というのは電子群が電界に引かれて移動する方向(縦)に対してその直角方向を意味し、 ν_m は運動量変換衝突周波数である。しかしモンテカルロシミュレーション(MCS)を行って詳細に検討した結果、電界による速度分布の異方性が強くなるほど横拡散係数 D_T はDよりも小さくなり、その値は電子の飛行一回毎の横方向2乗変位の平均値と単純平均飛行時間との比 $\langle (v_0 \sin \theta_0 \tau)^2 \rangle / 4 \langle \tau \rangle \dots [2]$ で与えられることを突き止めた。これは統計理論から拡散係数を与えた久保の公式とも一致する。 D_T がDより小さくなる第一の理由は、横方向速度が初速度

の横方向成分 $v_0 \sin\theta_0$ だけで与えられるにも関わらず D の表式が飛行中の全速度範囲での平均値で書かれていることである。第二の理由は[1]式が分母分子を一体とした平均値の表式となっているのに対し、[2]式は分母分子それぞれ独立に平均した値の比で表されているという定義の相異である。電界下では、 $v_m(t) = Nq_m(v)v(t)$ が電子の加速により変化するため[1]式は物理的に正しくない。さらに飛行時間の時間平均 $\langle \tau^2 \rangle / 2\langle \tau \rangle$ と単純平均 $\langle \tau \rangle$ も電界下では一般に異なる値をとる。このような理由を挙げて「 D_T は古典的定義による D とは異なる定義を持つ異なる量である。」という論文を、英国物理学会誌 (J. Phys. D) に投稿した。しかしずいぶん待たせたあげくあらぬ理由をつけて拒絶してきた。今だったらねじ込むところだが、当時は英語でけんかするのが億劫だったので、素直に取り下げて応用物理学会論文誌 (JJAP) に投稿した。しかしここでも「拡散係数は[1]式で与えられており、二つも拡散係数があるはずがない。」というような理由で拒絶の繰り返しに遭った。これに対しては日本語での意見の述べ易さを利用して「Refereeの意に沿わない論文がすべて公刊できなければ、new ideaは世に出ず科学の新しい進展もあり得ない。内容については著者が全責任をもつ。」と反論した結果、1年あまりかかってやっと印刷された(1983)。その後新しい計算データや理論的説明を加え[2]式も明記した原稿を再びJ. Phys. Dに投稿したが「これは過去の問題であり某々がすでに論じている。」と余り関係もない論文を挙げて拒絶された。私のJ. Phys. D嫌いはこの時以来続いている。拒絶された論文は日本物理学会論文誌 (J. Phys. Soc. Jpn.) に掲載された(1985)。

一般に、現在流布されている理論、認識は極めて大きい重み、慣性を持っている。電子輸送理論の世界的 authority と思われる人たちに会う度に、私は D と D_T の相違をsuggestした。しかし彼らは決してそれを肯定しようとはしなかった。肯定すれば彼らの出した論文の価値が滅殺されることになるから当然かも知れない。それをさらに思い知らされたのは、第一回電子・イオンSwarm日豪workshop(1988)のでき事である。豪側の発表したデータ相互間にかんがりの食い違いがあったので、その原因は D と D_T の相違ではないかとコメントした。その途端「そんなことはない」と数多くの怖い顔がこちらを向き、その一人が立ち上がって反論した。既成の理論を信じきっているのか、自分たちの成果に口を挟むなという意味なのかはわからない。しかしこのとき、たとえ真実を突き付けても、研究者が既に持っている認識を変えることがいかに困難であるかを思い知らされた。

その後は、ボルツマン方程式のまったく新しい解析法、Flight Time Integral (FTI)法の開発、試算に時間を取られ、拡散係数とのつき合いはいささか疎遠になっていた。しかしそれがまた、さし迫った問題として目の前に現れ悩まされることになった。自ら蒔いた種かも知れないが。

A. V. Phelpsらの最初の報告から約30年、弾性衝突における運動量変換断面積 q_m 、非弾性衝突における単純積分断面積 q_{in} が共にエネルギー損失率を与えるという理由から、その和を全断面積として用いるボルツマン方程式解析法が各種気体原子・分子の電子衝突断面積の決定に広く利用され、王道として確立された地位を保ってきた。かつこの方法は、弾性衝突における非等方散乱を考慮しているものと解釈されている。ここで運動量変換断面積は、衝突による x 方向への散乱確率を表す微分断面積 $q(v, \chi)$ に運動量損失率 $(1-\cos\chi)$ の重みをつけて全立体角について積分した値、積分断面積は重みを付けず全立体角について積分した値である。

しかし、電子の飛行を克明に記述して解析できるFTI法を用いて、弾性衝突で運動量変換断面積を一定に保って非等方散乱特性を厳密に導入して解析を行った結果、これまでの方法では単に運動量変換断面積 q_m による等方散乱解析をしていたに過ぎないことが明らかになり、第8回Swarm Seminarで、「一定運動量変換断面積で非等方散乱特性を考慮すると、積分断面積が変化し全衝突周波数も変化するので当然拡散係数も変化する。さらに非弾性衝突における非等方散乱まで考える

と、これまでの解析法によって得た衝突断面積はすべて見直さなければならない」と報告した (July, 1993)。ところが帰国すると最も信頼する友人から「お前の拡散係数 D は $\langle v^2/3\nu_m \rangle$ の間違いではないか」といつてきた。これまでの等方散乱を仮定した解析では $q_m = q_r$ 、したがって D としては $\nu_m = \nu_r$ でなんら問題がなかった。しかし非等方散乱を考慮すると拡散係数の分母が ν_m であるか ν_r かが大問題となる。 ν_m が $Nq_m(v)v$ で表わされることから q_m を拡散断面積とも呼ぶ慣習がある現在、「拡散係数は ν_m ではなくて、 ν_r に支配される」などと発言することはまさに天に唾する行為であるらしい。これは困ったことになったと思ったが自分の考えを曲げる訳にもいかず、「ご注意には感謝するが拡散係数 D は ν_r に支配されるはず」と返事した。前回と違ってすでに報告されている衝突断面積のデータが生きているか死ぬかの問題を含むため、電子輸送特性の研究者はこの問題に無関心ではあり得ない。意外に大きい波紋を呼びそうな雰囲気の中で、「拡散係数は本質的に ν_r に支配される」ことを主張し説得していかなければならない羽目になった。

現在のところ、外国にはもちろん日本にも、私の主張を理解し全面的にサポートしてくれる人は見当たらず、当分の間は孤立無援で拡散係数と付き合わざるを得ないと覚悟したところである。拡散係数は決して過去の問題ではなく、現在まだその定義をめぐって大きい混乱の中にある。この混乱の一番の原因、「電界支配の領域で Einstein の関係式 $e\epsilon = (3/2)D/\mu$ が成立する」と宣うた Authority effect の大きさと、他にも与える影響が大きいはずのこのような基本量の定義が定まらない現状をひそかに憂えている次第。 (工学部電気電子工学科物性デバイス講座教授)

『私の薦める一冊』

『これから結婚していく若者たちに ぜひ読んでほしい一冊の本』

十 枝 修

その一冊とは、エンゲルス著『家族・私有財産・国家の起源』(新日本文庫)である。この本は、家族・私有財産・国家の三つのテーマの起源について論じたものであり、最終的には国家の起源に収斂していく論文であるが、わたしは最初のテーマである「家族の起源」について書かれた第二章だけでもぜひ読んでほしいと願っている。

現代の若者は性(セックス)や結婚をどのように考えているのだろうか。多くの若者は、愛しあっているなら、結婚という形式にとられることなく性交にまで進むのは自然であり、当然であると考えているように思える。その結果、性交年齢は下がる一方のように思われる。一昔前にあっては、結婚前の性交には何か後ろめたさや不道徳さがつきまどっていたのと比べると、大変な違いである。結婚観についても大きな変化がみられるように思う。私の場合は、結婚は愛のゴール・インであり、本格的な愛情生活の始まりであったが、すでになかば公然と愛情生活を送っている若者にとっては、結婚はむしろ彼等の自由な生活を束縛する社会的な桎梏としか映らないのではなかろうか。また、結婚を考えるに当たって、まず家庭的・社会的条件を優先して愛情は二の次に考えるという昔ながらの保守的な傾向が再び強くなっているように思えてならない。

ところで、人類にとって、性(セックス)とはどのような意味をもって来たのであろうか。結婚

の形態はどのように変化してきたのだろうか。猿から別れて人間への道を歩み始めたばかりの我々の先祖は、自分たちの生き残りをかけて、男はすべての女の夫となり、女はすべての男の妻になるという、そこには何の規律もない無規律な集団婚を営んでいたのである。そしてしだいにより多くのより強い子孫を残すために、性交の相手から親子を、続いて兄弟姉妹を、近親者を排除していき、比較的ゆるやかな結びつきの1組の男女で構成する対偶婚家族が形成されていった。これらの結婚の形態では生まれた子どもの父親を特定することはできないので、子どもはすべて母親にだけ所属していた。すなわち、ここまでの家族は、母系制家族である。ところが、私有財産の増加とともに権力を持ち始めた男性は、自分の財産を自分の子どもに相続させたいと考えようになった。そのためには母系制家族では都合がわるいので、それを父系制に改め、妻の生んだ子がまちがいに自分の子であることを確かなものとするために、自分の妻には他の男性と性交することを厳しく禁止した家父長制の一夫一婦婚家族が形成された。このように、今日の一夫一婦婚の歴史は、男女の和合の最高形態としてつくられたものなどでは全然なく、父親の財産を自分の子どもに相続させたいという男の勝手な願いから、女性を男性に隷属化させることによって形成されたものである。

しかし、この一夫一婦婚は近代的な個人的異性愛を芽生えさせたのである。同じ結婚するなら好きな人と結婚したいという願いは、相続すべき財産を持たない、したがってお互いに自由な身分のプロレタリアートの間で比較的容易に実現することができた。財産がないがために男性が女性に対して優位に立つ根拠がなくなり、まして女性も男性と対等に社会に出て働くようになると、男性支配の最後の残滓もなくなり、それによって、真に対等な男女双方の熱烈な愛情だけを基礎にした恋愛婚、新しい民主的な一夫一婦婚家族が形成されるのである。

以上が本書の第二章の要点であるが、これを参考にして、結婚に対する男性優位の思想、双方の家柄や財産・職業にとらわれた結婚観を改めて、真に愛情豊かな幸せな家庭を築いてほしいと思う。

最後に、人間そのものについての正しい理解を得るために、同じくエンゲルスの書いた『猿が人間になるに際しての労働の役割』（大月書店、国民文庫）という短い論文もあわせて読むことを切に希望しておく。二冊とも徳大生協で購入可能な安い本である。

（総合科学部人間社会学科行動科学教授）



『私にとっての蔵本分館』

芳 地 一

皆さんは「あなたにとって大学図書館とはどういうところですか？」と、尋ねられたときどのように答えるでしょうか。本を読む・勉強をするなどの優等生の返答は当然として、中には、静かで冷暖房が効いているので昼寝の場所・デートの待ち合わせ場所などの様々な返答があると思います。実際、私も学生時代には時折休息の場所として使わせていただきました。

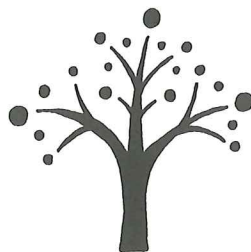
ところで、現在、私にとっての蔵本分館利用法は主に外国雑誌の借り出しとCD-ROMの検索です。外国雑誌は種類もかなりそろっており便利に利用しています。また、目的の外国雑誌がない場合でも論文の学外請求をすれば数日で入手でき不自由はしていません。CD-ROMの場合は、コンピュータが外国雑誌用に2台ありますが1987年以前と以後に別れており、1987年以後の検索者が大多数を占めることから実質1台の稼働の様に思え、使用予約もままならず利用者の一人としては多少の不便を感じています。最近、CD-ROMについては図書館長はじめ運営委員の方々の御努力により学内コンピュータネットワークとの連結が構想されているとお聞きしており、この構想が実現されれば文献検索も容易になると思われ、私としては非常に期待しています。

ところで、以外に知られていませんが蔵本分館に視聴覚室があるのは御存知でしょうか。視聴覚室には色々なビデオカセットテープが有り、私は教養を養う上で重宝しています。たとえば、テレビ番組のエイズ特集・やさしい解剖学・〇〇手術の実際など約400本が用意されています。教科書では100ページを読まなくてはならないところをビデオでは30分程にまとめてあったりします。また、画像を見ることによって良く理解できるものも多々あり非常に有用だと思えます。

最後に、教科書・解説書などの日本語図書について少し触れたいと思います。図書館では毎年新しい教科書・解説書を購入されている様ですが、このほとんどが各講座の図書室の方に置かれ蔵本分館の教科書・解説書が増えているように思えません。そのため図書館の指定図書は古いものが多く、何かを調べようと思ったとき他教室まで出向かなければならず多少の不便を感じます。学生の方々は図書館にあるものがすべてと思っている人も多いでしょうからこの点を改善していただいたら幸いに思えます。

図書館利用者の一人として色々述べていただきましたが、何より夜遅くまで開館していただいていることが私達にとって利用価値が大であり、今後もよき蔵本分館であって欲しいと思います。

(医学部薬理学講座助手)



『私にとっての図書館』

江口和代

図書館をイメージして浮かんできた光景が2つある。

1つは、図書館の数多くある椅子の中で決まっていつも同じ椅子に座って勉強している人の様子である。資料や本を前に鉛筆が忙しく動いている。いかにも「勉強しています」という姿が少し気になる。不思議なことにそういう人に限って、いつも同じ時刻に現れて、同じ椅子に座り、もくもくと勉強しては同じ時刻に帰っていく。私は図書館でアルバイトをしていて、そういう人を多く見かけた。おそらく何かの試験に向けて勉強しているのだろう。私の恩師の言葉を借りれば、「そういう人は必ず試験に合格する」のだそうだ。なるほど図書館ほど誘惑の少ない場所はない。そこにあるのは本と机、そして椅子だけである。“勉強するしかない”状況が用意されている。少し不自由を感じるようだが、目標を達成するためには自らをそのような場に追い込むことが必要らしい。同じ時間に同じ場所で毎日毎日、実際にやっている人を目にする。図書館で目を引く1つめの光景である。

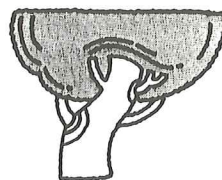
2つめは、友達と刺激し合って勉強している人達の様子である。友達と目ざすものが同じなら、一人で目ざそうとしないで共に目ざした方がよい。友達は自分を写す良い鏡なのだから。また、一人だと自己満足に陥りやすいし、ストレスもたまりやすい。それを回避させてくれるのが、やはり切磋琢磨できる友達である。互いに刺激し合って勉強している人達の様子—これもまた図書館で目を引く光景である。

上記の2つの光景を目にする度に私の中で不思議とやる気が起こってきたように思う。そして、試験を問わず自分の目ざす何かに向けてもくもくと勉強している人の姿を見ては、自分の“勉強”に対する取り組み方を反省したりした。「勉強したいことがしたいだけできるこの“大学生”という時を、私は課されたものをこなすことだけに精一杯になっていないだろうか」と。彼らを見ているとつくづく「勉強とは自分で見つけてするものなんだ」という気持ちになった。まさに自分の気持ちの赴くままにアンテナを伸ばし、ピピッときた方向に向かって勉強を深めているという感じである。図書館に行けばよくこんな気持ちになるのは、また、何かせずにはいられなくなるのは、図書館がもつ独特の雰囲気私のアンテナも過敏に反応しているからなのだろうか。

私の大学生活もあと半年。果たして、自分の勉強というものを見つけてやってこれたかどうか。恥ずかしながら、そんな達成感はこの私にはない。

しかし、そういう姿勢だけは持ち続けている。その姿勢を持ち続けて努力を怠らなければ目ざす夢に到達できると信じている。図書館に通い続けていたあの人は、目ざす夢に到達したであろうか。私もじっとしてはいられない。またアンテナを伸ばし、図書館に行くとしよう。

(総合科学部4年)



『 夢 』

南 和 志

私は、四年前にこの徳島大学に大学院生として来るまで図書館というものに全く無縁でした。

活字を読むのがうっとうしくて、本といえばせいぜいマンガを読む程度でした。こんな活字嫌いだった私が、頻繁に図書館に出入りするようになったのは、大学院生として研究を進め、論文をまとめるにあたって、様々な情報を入手する必要があったからです。そのため、数多くの学術論文を暇を見つけては読まなければならない状態となりました。また、そのような論文を読んでいますと、今まで私が全く知らなかったことや、予想すらしなかったことが証明されているものもあり、徐々に私は研究のとりこになってしまいました。私もぜひ、このような誰も知らない現象を世界で始めて実証するという喜びを実感してみたいと思いました。

タイトルに書きました私の夢は、一人前の研究者になることであり、このような新発見をすることです。そのためにも、まだまだ図書館に通い、もっと多くの論文に目を通し、更に情報を入手しなければなりません。そしてその論文を理解した上で、私自身が新しい研究を考えていかなければなりません。私の歩む道はまだまだ遠く果てしないものでしょう。しかし、私はそこへ向かって行かなければなりません。それは私自身が決めたことだからです。

今でも私にとって、活字とはやはりおっくうなものです。最近では学術論文を読むことにはさほど苦痛を感じなくなってきました。それは、私にとって、研究がそれほど興味あるものであり、一生の仕事としようと思うほどになったからです。子供の様なたわいもない夢の話を書いてしまいこの文を読まれた方々には笑われるかもしれませんが、これが現在の私の夢であり、希望であります。今後の私がどの程度の研究者になれるかはまだ分かりませんが、いつかは、私の研究論文を読み、今の私と同じ夢を描く大学院生が現れることを夢見ています。

(大学院薬学研究科博士(後期)課程3年)



『NACSIS-IRについて』

庫元孝文

1 はじめに

最近、大学や企業でのLAN導入等の話題をよく耳にすることがあります。本学でも、今年度中に学内LANが敷設される予定とのことで、外部情報機関との接続が容易に出来るようになりそうです。例えば、INTERNETなどを通じて国際的な専門分野のデータベースにもアクセスできることとなります。

ところで、学術情報の入手には、研究者は色々と工夫されていることと思います。本館の場合、冊子体のCHEMICAL ABSTRACTS, INDEX MEDICUS, 雑誌記事索引, 科学技術文献速報, CURRENT CONTENTS等が資料として用意されています。しかし、細分化した研究分野への学術情報の要求, 全文データベースの必要性等と活字メディアによる検索では研究者にとって効率性, 網羅性, 専門性において満足できる結果は得難くなっています。そこで、図書館としてはオンラインでJOIS, DIALOG, STN等のデータベースにアクセスし学術情報の入手の代行検索を行い、平成2年10月よりCD-ROMによるMEDLINEの検索システムを導入し研究者の便宜を図ってきました。

更に、研究者自身による情報への直接アクセスが科学研究のすう勢となっている昨今、本学でも学内LAN等によるネットワークシステム環境が整備されるこの時期にエンドユーザーがより多くのデータベースに直接アクセスできるNACSIS-IRを紹介します。

2 NACSIS-IRについて

NACSIS-IRは、1986年に我が国の学術情報の中心的機関として設立された学術情報センターが行っている情報検索サービスで、翌1987年からそのサービスをはじめました。当初は、13種類のデータベースをもって情報検索サービスをはじめましたが、現在は、39種類のデータベースとなっています。その内容は、資料1のNACSIS-IRデータベース収納状況のとおりで、非常に広範囲の分野に及んでいます。一つくらは、アクセスしてみようかと思われるデータベースがありましたでしょうか。その他に、臨床症例データベース、学術雑誌目次速報データベース（仮称）のサービスが予定されています。利用料金も資料2のとおりJOIS, DIALOG, STN等の商業データベースに比べて非常に安くなっています。なお、利用に際しては、パスワード取得のため学術情報センターへの申請が必要です。申請方法等は情報サービス課学術情報係へお問い合わせ下さい。

また、本学の場合、UNIXワークステーションやパーソナル・コンピュータを本学情報処理センターに接続することによりSINET経由でNACSIS-IRのデータベースにアクセスすることが出来ます。勿論、情報処理センターへの申請は必要です。学内LANの敷設により今まで以上にNACSIS-IRのデータベースにアクセスすることが容易になり、身近なものとなります。

3 NACSIS-IRからのNACSIS-ILL申込機能について

以前に館報でお知らせしましたように、NACSIS-IRを検索して必要な文献があった場合に、リクエストコマンド（文献請求用コマンド）を利用することにより所属機関の図書館に学外への文献複写・図書の貸借申込ができるように今年4月からなっています。なお、NACSIS-ILLとは、主に大学図書館間で実施している文献複写・図書の貸借の依頼・受付に係る業務を学術情報ネッ

トワークを利用して行うもので研究者への文献提供サービスをより迅速化・効率化することを目的としたシステムです。このNACSIS-ILLとNACSIS-IRとを連携したシステムは、例えば、図書館に向いて申込書を書かなくてすむとか、正確なタイトルで文献複写等の依頼ができるとか、また、自分の依頼した文献の処理状況について知ることなどもできるなど、より一層の文献提供サービスの向上を図ったものです。本館では、都合によりまだこのシステムの運用を開始していませんが、学内LANが整い次第、運用を始めようと考えています。なお、学術情報センターでは、来年早々にもNACSIS-ILLシステムからBritish Library Document Supply Centreへ文献複写の依頼が出来るように準備中とのことです。

4 おわりに

図書館では、CD-ROMサーバーを利用した情報検索システムの導入を計画しており、学内LAN敷設後は、LAN上であれば情報検索が可能となるよう努力しております。(学内の皆様の御支援よろしくお願ひします。)そして、外に目を向けると研究者間の電子メールサービスや電子掲示板サービスなども学術情報サービスの一部として機能しています。このように学術情報の環境は、大きく変わってきています。そこで、学内LANが敷設される機会に、とりあえず学術情報を得るための一つのオプションとしてNACSIS-IRのデータベース利用申請をされてはいかかでしょうか。

注) NACSIS-IRは、National Center for Science Information System - Information Retrieval Service の略称です。

(附属図書館情報サービス課学術情報係)

資料 1

NACSIS-IRデータベース収納状況

No	データベース名称	収納件数	平成5年7月23日現在	
			収録期間	経費区分
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	93,446	昭和60年度～	A
2	学位論文索引データベース	65,896	昭和59年度～	A
3	学会発表データベース	134,713	昭和62年3月～	A
4	学術論文データベース第一系(全文)	1,573	平成元年度～	A
	(電気関連)	3,842		
5	学術論文データベース第二系(化学関連)	11,401	昭和58年1月～	A
6	学術論文データベース第五系(理学関連)	1,474	平成4年1月～	A
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成4年1月現在	A
8	民間助成研究成果概要データベース	1,095	昭和46年度～	A
9	経済学文献索引データベース	90,600	昭和58年4月～	A
10	学会予稿集電子ファイル	43,497	1969年4月～	A
11	雑誌記事索引データベース	936,845	1984年1月～	A
12	現行法令データベース	3,677	平成5年3月現在	A
13	維新史料綱要データベース	23,089		B
14	木簡データベース	14,574		B
15	研究者ディレクトリ	130,109	昭和63年5月現在	A
16	データベース・ディレクトリ	1,327	平成4年4月現在	B
17	家政学文献索引データベース	19,751	1979年4月～	B
18	RAMBIOS	5,382	1983年4月～	B

19	化学センサーデータベース	8,780	1975年1月～	B
20	Life Science Collection	1,173,504	1982年1月～	A
21	Mathsci	1,491,345	1940年1月～	A
22	COMPENDEX PLUS	2,541,430	1976年1月～	A
23	Harvard Business Review	2,660	1927年1月～	A
24	ISTP & B	2,065,366	1982年1月～	A
25	EMBASE	2,788,968	1984年4月～	A
26	SciSearch	4,528,287	1987年4月～	A
27	Social SciSearch	783,401	1987年4月～	A
28	A & H Search	715,341	1987年4月～	A
29	目録所在情報データベース(和図書)	763,344		B
		6,501,906		
30	目録所在情報データベース(洋図書)	1,788,079		B
		4,250,456		
31	目録所在情報データベース(和雑誌)	73,542		B
		1,521,431		
32	目録所在情報データベース(洋雑誌)	113,613		B
		943,631		
33	科学技術関係欧文会議録データベース	34,254	昭和60年4月～	B
34	アメリカン・センター図書館総合目録データベース	6,451	平成4年6月～	B
35	JPMARC	1,341,536	1956年1月～	B
36	LCMARC (Books)	3,469,104	1968年1月～	B
37	LCMARC (Serials)	578,597	1973年1月～	B
38	学術関係会議等開催情報(日本学術会議編)	7,422	1991年4月～	B
39	学協会集会スケジュール(日本工学会編)	437	1991年4月～	B

注) No. 29 32のデータベースの上段は書誌件数、下段は所蔵件数。

資料 2

利用料金

経費区分

A

接続料

50円/分

ヒット料

13円/件

ファクシミリ出力をした枚数に対して 34円/件

B

30円/回

利用時間

月曜日～金曜日9:00～翌日2:00 土曜日9:00～14:00

問い合わせ先・利用申請書送付先

学術情報センター管理部共同利用課共同利用係 TEL03-3942-6933～4

原稿・資料作成にあたっては、学術情報センターの出版物を利用・参考にさせていただきました。

〔図書館案内〕

『国立大学図書館協議会総会を徳島で開催』

情報管理課総務係

第40回国立大学図書館協議会総会が6月23日・24日の両日、本学附属図書館が当番館で、文部省をはじめ関係機関及び99国立大学図書館から257名の参加のもと、徳島県郷土文化会館で開催された。

協議会会長である清水忠雄東京大学附属図書館長の開会の辞、本学の武田克之学長、後藤健次館長の挨拶の後、一般経過報告、各地区協議会報告、文献複写に係る著作権問題特別委員会報告等11件の事項が報告され、続いて協議事項として8件が協議された。

引き続き、文部省学術国際局長谷川裕恭学術情報課長より文部省所管事項説明があった後、研究会集会に入り、「大学図書館の活性化－自己点検・自己評価とその活用－」をテーマに、「自己評価基準検討委員会で検討したこと」郡司阪大附属図書館情報管理課長、「転換期の大学と新図書館の構想」池田愛媛大学図書館長、「大学図書館の自己点検・自己評価について」竹内図書館情報大学附属図書館長の発表があった。

2日目は、分科会が第一と第二にわかれ、それぞれ地区協議会から提出された協議事項を中心に審議がおこなわれた。協議事項は次のとおり。

第一分科会（予算・人事）

1. 次世代の図書館コンピュータシステムについて
2. 電子化情報資料の収集・提供について
3. 土曜日開館の今後のあり方について
4. 学術情報センターにおける研修の強化に関する要望について
5. 学術情報センターの研修の充実について
6. “いわゆる円高”について
7. 遡及入力について
8. 「学術雑誌目次速報データベース事業化計画」について

第二分科会（運営・サービス）

1. 図書館業務における電子的手段の利用の高度化について
2. ニューメディアの活用と今後の課題
3. ニューメディアへの対応と今後の課題
4. 「大学図書館ネットワーク計算機システムの変化への対応」
5. 図書館システム等の変化に対応する調査研究体制の整備について
6. 生涯学習への対応－社会・地域への公開
7. 週休2日制の実施に伴う図書館のサービス体制について
8. ILLシステムの運用を協議するための組織の設置について
9. 目録所在情報サービス等の利用をめぐる諸問題を検討する機関の設置について
10. 学術情報センター情報検索サービス（NACSIS-IR）からのILL申込機能（REQUESTコマンド）の運用について
11. 「学術雑誌目次速報データベース事業化計画」について

『平成5年度目録システム講習会(地域講習会)を開催』

情報管理課図書情報係

昨年度に続いて今年度も学術情報センターと共催で、目録システム講習会(地域講習会)を7月26日～7月30日(第1期)、8月3日～6日(第2期)にわたり本館で開催しました。

この講習会は、学術情報センターの目録システム(NACISIS-CAT)に関する知識及び技術の研修を目的とするものです。

講義等については、学術情報センターの講師が「目録システム概論」、「目録情報の基準」を担当し、岡山大学、高知大学、鳴門教育大学及び当館の講師が「検索」「図書登録」「雑誌登録」等の実習を担当しました。

受講者は、他大学4名、本学6名の計10名で、第1期、第2期にそれぞれ5名が受講、全員に修了証明書が授与されました。

講 師

村 田 輝	学術情報センター	目録情報課	図書目録情報係
北 条 充 敏	学術情報センター	目録情報課	雑誌目録情報係
守 屋 勇 夫	岡山大学附属図書館情報サービス課	図書館専門員	
弘 瀬 高 久	高知大学附属図書館	学術情報係長	
杣 友 友 子	鳴門教育大学教務部	図書課目録情報係長	
岡 田 恵 子	徳島大学附属図書館	情報管理課図書情報係長	

『平成5年度NACISIS-IRシステム講習会(地域講習会)を開催』

情報サービス課学術情報係

去る7月21日～22日、学術情報センターとの共催により、平成5年度NACISIS-IR講習会(地域講習会)を本学の情報処理センターで開催しました。

この講習会は、学術情報センターのNACISIS-IR(情報検索)システムの運用に関する知識・技術を研鑽させることを目的とするものであり、今回が四国地区での初めての地域講習会の開催となりました。

講師は、学術情報センター・データベース課の2名が担当し、講義および検索実習を行いました。

受講者は、他大学11名、本学12名、計23名で、全員に修了証書が授与されました。

本研修の受講者は、今回習得した知識・技術を十分に生かし、利用者に対するサービスの向上に努めることができるものと期待しています。

このたびの地域講習会開催にあたり、御指導、御協力をいただきました学術情報センター及び情報処理センターの皆様たいして深く感謝いたします。

なお、講師の方々は次のとおりでした。

講 師

志津田 嘉 康	学術情報センター	データベース課	データベース管理係長
磯 谷 峰 夫	学術情報センター	データベース課	調査係

『図書館の活用法(その二)』

情報サービス課情報サービス係

図書館が所蔵する資料のうち、視聴覚資料について紹介しましょう。

視聴覚資料として、語学学習用テープ、音楽のCD、LD、ビデオテープ、カセットブック、マイクロフィルム等を備付けてあります。

今回はその利用方法と本館所蔵のLD(レーザービジョンディスク)についてお知らせしますので、利用する時の参考にしてください。

1. 利用方法

- ① 所蔵リストは2階開架閲覧室に置いてあります。
- ② 利用の申込はサービスカウンターで受付けています。
- ③ 館内の視聴覚室を利用してください。
- ④ 館外貸出はしていません。ただし、音楽のCDのみ館外貸出をしています。
- ⑤ その他わからないことはサービスカウンターで尋ねてください。

2. LDの種類について

音楽(クラシック、ポピュラー)、映画、美術、建築、コンピュータ アニメーション、バレエ、宇宙、環境、風景、歴史、落語等々で現在約360枚あります。

3. LD一覧

今号では映画と美術・建築のLDを、順次各ジャンルについてお知らせします。

映画LD一覧

タイトル	監督	出演者	時間	LD No.
1. アベンチャーファミリー	スチュワート・ラフィル	ロバート・ロガン	100分	174
2. 逢いびき	デビッド・リン	ローラ・ジェッソン	86	22
3. 哀愁	マービン・ルロイ	ビビアン・リー	108	42
4. 赤い風車	ジョン・ヒューストン	桃・ファーラー	119	21
5. 赤い靴	マイケル・パウエル	モイラ・シアラー	134	244-245
6. アマデウス	ミロス・フォアマン	F.M.エイブラム	160	1-2
7. アンナ・マグダレーナ・バハの日記	J=M. ストロブ	グスタフ・レオンハルト	94	228
8. アニー・ホール	ウッディ・アレン	ウッディ・アレン	94	180
9. アラビアのロレンス	デビッド・リン	ピーター・オトゥール	202	101-102
10. ベン・ハー	ウィリアム・ワイラー	チャールトン・ヘストン	222	158-159
11. ベニスに死す	ルキノ・ヴィスコンティ	ターク・ボガード	130	113-114
12. ベルリン天使の詩	ヴォルフガング・ペーターセン	ガルノ・ガンツ	128	251-252
13. ドクトル・ジバゴ	デビッド・リン	オマー・シャリフ	200	160-161

タイトル	監督	出演者	時間	LD No.
14. エデンの東	エリア・ガザン	ジェームズ・ディーン	115分	31-32
15. 八月の鯨	リンゼイ・アンダーソン	ベティ・デイヴィス	91	111
16. 白鯨	ジョン・ヒューストン	グレゴリー・ペック	116	119
17. ホフマン物語	マイケル・パウエル	モイラ・シラー	109	23
18. 幌馬車	ジョン・フォード	ベン・ジョンソン	90	37
19. ホテルニューハンプシャー	ホニー・リチャードソン	ボブ・プリッツス	109	240
20. ホワイトクリスマス	マイケル・カーティス	ビング・クロスビー	120	33-34
21. J F K	オリバー・ストーン	ケビン・コスナー	189	349
22. 地獄の黙示録	フランシス・コッポラ	マーロン・ブランド	153	35-36
23. 十戒	セシル・B. デミル	チャールトン・ヘストン	228	175-176
24. 海底2万マイル	リチャード・フライシャー	カーク・ダグラス	127	99-100
25. 風の谷のナウシカ	宮崎 駿		116	183
26. 風と共に去りぬ	ビクター・フリング	クラーク・ゲーブル	232	29-30
27. ケイン号の叛乱	エドワード・ドミトリク	ハンフリー・ボート	124	106-107
28. キッチントト	ハリ・フック	エドウィン・マヒンダ	96	223
29. 禁じられた遊び	ルネ・クレマン	ブリジッド・ファオウセエ	86	24
30. 奇跡の人	アーサー・ベン	アン・バンクロフト	103	118
31. 地上より永遠に	フレッド・ジンネマン	バート・ランカスター	118	105
32. 子象物語	大下 亮	武田 鉄矢	124	250
33. クレイマー、クレイマー	ロバート・ベントン	ダスティン・ Hoffman	105	220
34. マーラー	ケン・ラッセル	ロバート・パウエル	111	26
35. 魔女の宅急便	宮崎 駿		102	186
36. 南太平洋	ジョシュア・ローガン	ロッソ・ブラッツィ	157	93-94
37. ミッション	ロランド・ジョフィ	ロバート・デ・ニロ	126	241-242
38. エスキート・ゴースト	ピーター・ウエア	ハリソン・フォード	119	182
39. ナバロンの要塞	J. リー・トンプソン	グレゴリー・ペック	144	103-104
40. 長い灰色の線	ジョン・フォード	タイロン・パワー	131	253-254
41. 南極物語	蔵原 惟繕	高倉 健	145	195-196
42. 橋山節考	今村 昌平	緒形 拳	130	189-190
43. 眠れる森の美女	クライド・ジエロニミ		75	227
44. 人間の証明	佐藤 純弥	松田 優作	133	246-247
45. 人間の約束	吉田 喜重	三国連太郎	123	187-188
46. 黄金	ジョン・ヒューストン	ハンフリー・ボート	121	116-117
47. 巴里のアメリカー人	ヴィンセント・ミニ	ジーン・ケリー	113	25
48. 巴里祭	ルネ・クレール	アナベラ	91	20

タイトル	監督	出演者	時間	LD No.
49. ライト スタッフ	フィリップ・コーマン	リム・シェバード	193分	221-222
50. 乱	黒沢 明	仲代 達矢	162	191-192
51. レインマン	ハー・ロビンソン	ダスティン・ホフマン	135	120-121
52. ローマの休日	ウィリアム・ワイラー	オードリー・ヘップバーン	118	41
53. ロミオとジュリエット	フランコ・ゼフィレツリ	オリヴィア・ハッシー	138	248-249
54. ロシアより愛をこめて	テレンス・ヤング	ジョン・コネリー	115	115
55. 旅情	デビッド・リーン	キャサリン・ヘップバーン	100	112
56. サウンド オブ ミュージック	ロバート・ワイズ	ジュリー・アンドリュース	172	95-96
57. 戦場にかける橋	デビッド・リーン	ウィリアム・ホルデン	155	108-109
58. 戦場にかける橋 2	A. V. マクラグレン	エドワード・フォックス	102	110
59. 戦場の小さな天使たち	ジョン・ブアマン	S. R. エドワーズ	108	224
60. それから	森田 芳光	松田 優作	130	193-194
61. 卒業	マイク・ニコルズ	ダスティン・ホフマン	107	177
62. スタンド・バイ・ミー	ロブ・ライナー	ウィル・ウィートン	85	181
63. スターウォーズ	ジョージ・ルーカス	マーク・ハミル	121	39-40
64. 誰がために鐘は鳴る	リム・ウッド	ゲリー・クーバー	130	97-98
65. 天空の城ラピュタ	宮崎 駿		124	184-185
66. とناりのトトロ	宮崎 駿		86	162
67. 逃亡者	ジョン・フォード	ヘンリー・フォンダ	90	38
68. ウェストサイド物語	ロバート・ワイズ	ナタリー・ウッド	152	27-28
69. ワガナ 偉大なる生涯	トニー・パルマー	リチャード・バートン	215	257
70. 若草物語	マーヴィン・ルロイ	ジューン・アリスン	122	178-179

美術・建築LD一覧

タイトル		時間	LD No.
1. ルーブル美の回廊	I 古代エジプト幻想、メソポタミアの祈り	58分	56
2. "	II ビーナスの誕生、古代ローマの肖像	"	57
3. "	III 中世の面影、ルネサンスとレオナルド	"	58
4. "	IV 北方ルネサンスのきらめき、花の盛期ルネサンス	"	59
5. "	V スペイン絵画の光と影、ルベンスとレンブラント	"	60
6. "	VI 太陽王の世紀、魅惑のロココ	"	61
7. "	VII ロマン派宣言、作品インデックス	30	62
8. Antonio Gaudi		72	122
9. ルーヴル美術館		120	203-204
10. エルミタージュ美術館		240	205-206
11. 名曲美術館	エルミタージュの巨匠たち	60	216

12.	“	エルミタージュの至宝	58	217
13.	“	ルーブル・人間讃歌	60	218
14.	“	ルーブル・美の源流	60	219
15.	黄金のエジプト王朝		30	288
16.	国宝への旅	奈良 東大寺・大仏	39	304
17.	“	松島 瑞巖寺	34	305
18.	大英博物館	①メソポタミア・文明の誕生	59	306
19.	“	②エジプト・大王ラムセスの帝国	49	307
20.	“	③ギリシャ・パルテノンの栄光	49	308
21.	エルミタージュ・華麗なる美の殿堂		90	309
		ロマノフ王朝の秘宝・皇帝ニコライ2世の遺産		
22.	クレムリン宮殿		30	314
23.	ガウディ讃歌	～バルセロナ・ファンタジー～	38	315
24.	中国の庭園		43	331
25.	ひまわり～プロヴァンスのゴッホ～		53	333
26.	名曲美術館	①I プラド美術館(スペイン・マドリード)	55	341
27.	“	②II “	57	342
28.	“	③I ルーブル美術館(フランス・パリ)	57	343
29.	“	④II “	52	344
30.	“	⑤カイロ博物館(エジプト・カイロ)	57	345
31.	“	⑥クレラー＝ミュラー美術館(オランダ・オッテルロー)	58	346
		アムステルダム美術館		
		ゴッホ美術館		
32.	“	⑦ナショナル・ギャラリー(ロンドン)	58	347
33.	“	⑧アルテ・ピナコテーク(ドイツ・ミュンヘン)	58	348
		ノイエ・ピナコテーク		

お 知 ら せ

最近, こんなCD-ROMが入りました。情報検索コーナーでご利用ください。

1. Shakespeare
シェークスピアの全著作の完全な全文(戯曲, 詩, ソネットを含む)。
2. 全国観光情報データベース
全国の観光資源, 観光施設, 宿泊施設, インフォメーション等の情報。
3. 岩波電子日本総合年表
4. 英語で英語に強くなる 第1巻～第10巻
声とアニメによる英語学習教材。

『1994年版新規購読及び購読中止学術雑誌等一覧』

1994年版の新規購読雑誌及び購読中止雑誌が決まりましたのでお知らせします。この一覧は常三島地区（総合科学部，工学部，工業短期大学部，開放実践センター，図書館本館）のリストで，蔵本地区については分館発行の「MLニュース」に掲載します。

新規購読雑誌

（欧文の部）

- | | |
|--|-----------|
| 1. BYTE. | 図書館 |
| 2. Change. (USA) | 開実セ |
| 3. Cognitive Linguistics. (Mouton de Gruyter) (DEU) | 総（英語英文学） |
| 4. Computational Materials Science. (NLD) | 工（機A-3） |
| 5. Computer Speech and Language. (GBR) | 工（知A-4） |
| 6. Cross-Cultural Research:The Journal of Comparative Social Science.(USA) | 工（機A-3） |
| 7. Designs,Codes and Cryptography. (NLD) | 総（数理情報） |
| 8. Intermetallics. (GBR) | 工（機A-1） |
| 9. International Labor Review. (USA) | 総（経済社会） |
| 10. International Materials Reviews..(GBR) | 工（機A-5） |
| 11. Journal of Acoustic Emission. (USA) | 工（機A-1） |
| 12. Journal of Combinatorial Theory. Sre.B (USA) | 総（数理情報） |
| 13. Journal of the History of Ideas. (USA) | 総（英語英文学） |
| 14. Journal of Moral Education. (GBR) | 総（心理学） |
| 15. Journal of Muscle Research and Cell Motility. (GBR) | 総（スポーツ科学） |
| 16. The Modern Language Review. (GBR) | 総（英語英文学） |
| 17. New Directions for Community Colleges. (USA) | 開実セ |
| 18. Professional Geographers Geography. (USA) | 総（史学） |
| 19. Progress in Human Geography. (GBR) | 総（史学） |
| 20. Separation Science and Technology. (USA) | 工（化C-2） |
| 21. Studies in English Literature 1500-1900. (USA) | 総（英語英文学） |
| 22. Surface Engineering. (GBR) | 工（機A-5） |
| 23. Transportation. (NLD) | 工（建C-1） |

（和文の部）

- | | |
|---------|-----------|
| 1.阿波おどり | 総（スポーツ科学） |
| 2.文学界 | 総（国語国文学） |

3. 文史知識〔華文〕	総(哲学)
4. 近きに在りて	総(哲学)
5. 中国-社会と文化	総(哲学)
6. 電気学会研究会資料:超電導応用電力機器	工(電B-1)
7. " :産業計測制御	工(電B-1)
8. 電子情報通信学会技術研究報告:フォールトトレラント	工(電C-3)
9. " :言語理解とコミュニケーション	工(知A-4)
10. " :音声	工(知A-4)
11. グローバルビジネス	総(経済社会)
12. 判例地方自治	総(経済社会)
13. ひらがな タイムズ	図書館
14. ISLA (イスラ)	工(建A-2)
15. THE JAPAN TIMES	図書館
16. 人工知能学会研究会資料 :言語・音声理解と対話処理	工(知A-4)
17. 情報処理学会研究報告 :自然言語処理	工(知A-4)
18. 会計人コース	総(経済社会)
19. 経営行動	総(経済社会)
20. 経済学文献季報	総(経済社会)
21. 季刊エデュカス	総(社会学)
22. 金融研究	総(経済社会)
23. 公共選択の研究	総(経済社会)
24. 九十年代〔華文〕	総(哲学)
25. LAN TIMES	図書館
26. 日本経済政策学会年報	総(経済社会)
27. 日本教育新聞	総(心理学)
28. 日経コミュニケーション	図書館
29. 日経MAC	図書館
30. オンライン検索	図書館
31. バリティ	図書館
32. 歴史地理学	総(史学)
33. 細胞工学	総(スポーツ科学)
34. 織研新聞	総(生活科学)
35. 資金循環勘定	総(経済社会)
36. 新華文摘〔華文〕	総(哲学)
37. 争鳴〔華文〕	総(哲学)
38. SUN WORLD (日本語版)	図書館
39. トランジスタ技術スペシャル	工(電C-3)
40. ツールエンジニア	工(機械工場)
41. 税経セミナー	総(経済社会)

購読中止雑誌

(欧文の部)

- | | |
|--|-----------|
| 1. ACM Transactions on Programming Language and Systems. (USA) | 工 (知情共) |
| 2. American Political Science Review. (USA) | 総 (経済社会) |
| 3. Analysis. (GBR) | 総 (哲学) |
| 4. Analytical Letters. (USA) | 短 (応化1) |
| 5. Archiv fur Electrotechnik. (DEU) | 工 (電B-3) |
| 6. Artificial Intelligence. (NLD) | 工 (知情共) |
| 7. Botanical Review. (USA) | 総 (基礎生物) |
| 8. Chronicle of Higher Education. (USA) | 開実セ |
| 9. Communications of the ACM. (USA) | 工 (知情共) |
| 10. Comparative Political Studies. (USA) | 総 (経済社会) |
| 11. Comparative Politics. (USA) | 総 (経済社会) |
| 12. Computer Aided Design. (GBR) | 工 (機C-1) |
| 13. Computing Reviews. (USA) | 工 (知情共) |
| 14. Computing Surveys. (USA) | 工 (知情共) |
| 15. Current Contents:Social & Behavioral Sciences. (USA) | 総 (心理) |
| 16. Discrete Applied Mathematics. (NLD) | 短 (電気1) |
| 17. Discrete Mathematics. (NLD) | 短 (電気1) |
| 18. Economic Policy. (GBR) | 総 (経済社会) |
| 19. Electric Light and Power. (USA) | 短 (電気2) |
| 20. Electrochimica Acta. (GBR) | 工 (化B-3) |
| 21. European Industrial Relations Review. (GBR) | 総 (経済社会) |
| 22. European Journal of Political Research. (NLD) | 総 (経済社会) |
| 23. Fundamenta Mathematicae. (POL) | 工 (基礎A) |
| 24. Geologica et Paleontologica. (DEU) | 総 (総合物II) |
| 25. Geometricae Dedicata. (NLD) | 総 (数理情報) |
| 26. IEE Proceedings. Pt.A:Physical Science,Measurement & (GBR) | 工 (電電共) |
| 27. " Pt.B:Electric Power Applications. | 工 (電電共) |
| 28. " Pt.C:Generation,Transmission & Distribution. | 工 (電電共) |
| 29. " Pt.D:Control Theory & Application. | 工 (電電共) |
| 30. " Pt.E:Computers and Digital Techniques. | 工 (電電共) |
| 31. " Pt.F:Radar and Signal Processing. | 工 (電電共) |
| 32. " Pt.G:Circuits,Devices and Systems. | 工 (電電共) |
| 33. " Pt.H:Microwaves,Antennas & Propagation. | 工 (電電共) |
| 34. " Pt.I:Communications,Speech and Vision. | 工 (電電共) |
| 35. " Pt.J:Optoelectronics. | 工 (電電共) |
| 36. IEEE ACM Transactions on Networking. (USA) | 短 (電気共) |
| 37. IEEE Aerospace and Electronic Systems Magazine. | 短 (電気共) |
| 38. IEEE Circuits and Devices Magazine.. | 短 (電気共) |
| 39. IEEE Communications Magazine. | 短 (電気共) |

40. IEEE Computer Applications in Power.	短 (電氣共)
41. IEEE Computer Graphics and Applications.	工 (知情共)
42. IEEE Control Systems Magazine.	短 (電氣共)
43. IEEE Design and Test of Computers.	短 (電氣共)
44. IEEE Electrical Insulation Magazine.	短 (電氣共)
45. IEEE Electron Device Letters.	短 (電氣共)
46. IEEE Engineering Management Review.	短 (電氣共)
47. IEEE Engineering in Medicine and Biology.	短 (電氣共)
48. IEEE Expert-Intelligent Systems and Their Applications.	短 (電氣共)
49. IEEE Journal of Lightwave Technology.	短 (電氣共)
50. IEEE Journal on Microelectromechanical Systems.	短 (電氣共)
51. IEEE Journal of Oceanic Engineering.	短 (電氣共)
52. IEEE Journal of Quantum Electronics.	短 (電氣共)
53. IEEE Journal on Selected Areas in Communications.	短 (電氣共)
54. IEEE Journal of Solid-State Circuits.	工 (知情共)
55. IEEE Micro-Institute of Electrical & Electronics Engineers.	工 (知情共)
56. IEEE Microwave and Guided Wave Letters.	短 (電氣共)
57. IEEE Network-The Magazine of Computer Communications.	短 (電氣共)
58. IEEE Photonics Technology Letters.	短 (電氣共)
59. IEEE Power Engineering Review.	短 (電氣共)
60. IEEE Signal Processing Magazine.	工 (知情共)
61. IEEE Software.	短 (電氣共)
62. IEEE Technical Activities Guide.	短 (電氣共)
63. IEEE Technology and Society.	短 (電氣共)
64. IEEE Transactions. Aerospace & Electronic Systems. (USA)	短 (電氣共)
65. IEEE " Antennas & Propagation.	短 (電氣共)
66. IEEE " Applied Superconductivity.	短 (電氣共)
67. IEEE " Biomedical Engineering.	工 (知情共)
68. IEEE " Broadcasting.	短 (電氣共)
69. IEEE " Communications.	短 (電氣共)
70. IEEE " Components, Hybrids & Manufacturing Technology.	短 (電氣共)
71. IEEE " Computer-Aided Design of Integrated Circuits & Systems.	短 (電氣共)
72. IEEE " Consumer Electronics.	短 (電氣共)
73. IEEE " Education.	工 (知情共)
74. IEEE Electrical Insulation.	短 (電氣共)
75. IEEE Transactions Electromagnetic Compatibility.	短 (電氣共)
76. IEEE " Electron Devices.	短 (電氣共)
77. IEEE " Energy Conversion & Combined Index.	短 (電氣共)
78. IEEE " Engineering and Management.	工 (知情共)
79. IEEE " Geoscience Remote Sensing.	短 (電氣共)
80. IEEE " Image Processing.	工 (知情共)
81. IEEE " Information Theory.	工 (知情共)
82. IEEE " Instrumentation & Measurement.	短 (電氣共)

83. IEEE	"	Magnetics.	短 (電氣共)
84. IEEE	"	Medical Imaging.	短 (電氣共)
85. IEEE	"	Microwave Theory & Techniques.	短 (電氣共)
86. IEEE	"	Nuclear Sciences.	短 (電氣共)
87. IEEE	"	Parallel & Distributed Systems.	工 (知情共)
88. IEEE	"	Parallel & Distributed Technology.	短 (電氣共)
89. IEEE	"	Plasma Sciences.	短 (電氣共)
90. IEEE	"	Power Electronics.	短 (電氣共)
91. IEEE	"	Power Systems & Combined Index.	短 (電氣共)
92. IEEE	"	Professional Communications.	短 (電氣共)
93. IEEE	"	Rehabilitation Engineering.	短 (電氣共)
94. IEEE	"	Semiconductor Manufacturing.	短 (電氣共)
95. IEEE	"	Speech & Audio Processing.	短 (電氣共)
96. IEEE	"	Ultrasonics, Ferroelectrics & Frequency Control.	短 (電氣共)
97. IEEE	"	Vehicular Technology.	短 (電氣共)
98. IEEE	"	Very Large Scale Integration Systems.	短 (電氣共)
99. International Journal of Engineering Science.		(GBR)	短 (機械 1)
100. International Organization.		(USA)	総 (経済社会)
101. International Water Power and Dam Construction.		(GBR)	工 (電 B - 3)
102. Journal of the American Ceramic Society.		(USA)	短 (工学基礎)
103. Journal of the American Oriental Society.		(USA)	総 (哲学)
104. Journal of Applied Physics.		(USA)	短 (電氣共)
105. Journal of Asian Studies.		(USA)	総 (経済社会)
106. Journal of the Association for Computing Machinery.		(USA)	工 (知情共)
107. Journal of Chemical Physics.			短 (工学基礎)
108. Journal of Computational Physics.		(USA)	工 (知 B - 2)
109. Journal of Geology.		(USA)	総 (総合物 II)
110. Journal of International Business Studies.		(USA)	総 (経済社会)
111. Journal of Optical Society of America: Sect. A		(USA)	総 (心理)
112. Journal of Optical Society of America: Sect. B		(USA)	総 (心理)
113. Journal of Plant Growth Regulation.		(USA)	総 (基礎生物)
114. Journal of Physics. B: Atomic and Molecular Physics.		(USA)	工 (電 A - 2)
115. Journal of Physics. D: Applied Physics.		(USA)	短 (電氣共)
116. Journal of Research in Science Teaching.		(USA)	総 (総合物 I)
117. Journal of Sedimentary Petrology.		(USA)	総 (総合物 II)
118. Journal of Social Psychology.		(USA)	総 (心理)
119. Journal of Soil Contamination.		(USA)	工 (建 C - 1)
120. Journal of Symbolic Logic.		(USA)	総 (哲学)
121. Journal of Prestressed Concrete Institute.		(USA)	工 (建 A - 1)
122. Lighting Design & Applications.		(USA)	短 (電氣 2)
123. Makromolekulare Chemie: Theory and Simulations.		(SCH)	工 (化 A - 2)
124. Marine Geology.		(NLD)	総 (総合物 II)
125. Materials Performance.		(USA)	工 (機 A - 5)

126. Mechanics of Materials. (NLD)	工 (機A-1)
127. Metals Abstracts. (GBR)	工 (機A-1)
128. Modern Asian Studies. (GBR)	総 (経済社会)
129. Monthly Review. (USA)	総 (経済社会)
130. New Left Review. (USA)	総 (経済社会)
131. Nuclear Fusion. (AUT)	工 (電A-1)
132. L'Oeil (FRA)	総 (美術)
133. PS:Political Science & Politics. (USA)	総 (経済社会)
134. Pacific Historical Review. (USA)	総 (経済社会)
135. Physica.D (NLD)	工 (電C-5)
136. Physical Review. A:General Physics.	工 (基礎C)
137. Physics of Fluid. A (USA)	工 (電A-1)
138. Physics of Fluid. B (USA)	工 (電A-1)
139. Political Studies. (GBR)	総 (経済社会)
140. Politics & Society. (USA)	総 (経済社会)
141. SIAM Journal on Applied Mathematics. (USA)	工 (知情共)
142. SIAM Journal on Computing. (USA)	工 (知情共)
143. SIAM Review. (USA)	工 (知情共)
144. Sedimentary Geology. (NLD)	総 (総合物Ⅱ)
145. Sedimentology. (GBR)	総 (総合物Ⅱ)
146. Talanta. (GBR)	短 (応化Ⅰ)
147. Tectonophysics. (NLD)	総 (総合物Ⅱ)
148. Theory of Probability and its Applications. (USA)	工 (知情共)
149. Topology & its Applications. (NLD)	工 (基礎A)
150. Town Planning Review. (GBR)	工 (建C-1)
151. West European Politics. (GBR)	総 (経済社会)
152. World English. (USA)	総 (英文)

(和文の部)

1. 地質ニュース	総 (総合物Ⅱ)
2. 電気学会電気企画調査会標準規格 (JEC規格)	工 (電電共)
3. 電気学会技術報告 I	工 (電電共)
4. 電気学会技術報告 II	工 (電電共)
5. 電気学会研究会資料: 情報処理	工 (電B-1)
6. " : 計測	工 (電B-1)
7. " : 放電	工 (電B-3)
8. 電気評論	工 (電電共)
9. 電気と工事	短 (電気2)
10. 電子情報通信学会技術研究報告: コンピュータシステム	工 (電C-3)
	工 (知A-2)

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 11. 電子情報通信学会技術研究報告：光・量子エレクトロニクス | 短（電子2） |
| 12. データ通信 | 図書館 |
| 13. 現代教育科学 | 総（総合物I） |
| 14. 月刊 スーパーアスキー | 工（知A-3） |
| 15. 法律判例文献情報 | 総（経済社会） |
| 16. 法社会学年報 | 総（経済社会） |
| 17. ジュリスト 総合特集 | 総（経済社会） |
| 18. 科学技術文献速報 電気工学編 | 工（電電共） |
| 19. 科学技術文献速報 管理システム技術編 | 図書館 |
| 20. 経済 | 総（経済社会） |
| 21. 経済評論 別冊共 | 総（経済社会） |
| 22. 季刊 仏教 | 総（哲学） |
| 23. 季刊 窓 | 総（経済社会） |
| 24. コミ・ユント | 総（心理） |
| 25. コンピュータ & ネットワーク LAN | 図書館 |
| 26. MAC POWER | 図書館 |
| 27. 選択 | 総（経済社会） |
| 28. 自然保護法規総覧 | 総（基礎生物） |
| 29. Styling. | 総（哲学） |
| 30. 徳島の気象 | 総（分子細胞生物） |
| 31. VOICE | 総（経済社会） |

（国内欧文の部）

- | | |
|------------------------|---------|
| 1. Zoological Science. | 総（基礎生物） |
|------------------------|---------|

（誌名変更）

1. Soviet Physics.-Solid State.→Physics of Solid State.
2. Soviet Psychology.→Journal Russian and East European Psychology.



『会 議』

附属図書館運営委員会

第 1 回

- 日 時 平成 5 年 4 月 2 6 日 (月) 1 5 時 1 0 分 から
場 所 附属図書館会議室
議 題 1 平成 5 年度事業計画について
2 平成 6 年度概算要求事項 (案) について
3 附属図書館長候補者の選考について

第 2 回

- 日 時 平成 5 年 5 月 2 4 日 (月) 1 5 時 1 0 分 から
場 所 附属図書館会議室
議 題 平成 5 年度附属図書館経費所要額 (案) について

第 3 回

- 日 時 平成 5 年 6 月 7 日 (月) 1 5 時 1 0 分 から
場 所 附属図書館会議室
議 題 附属図書館長候補者の選出について

第 4 回

- 日 時 平成 5 年 6 月 2 8 日 (月) 1 5 時 1 0 分 から
場 所 附属図書館会議室
議 題 1 分館長候補者の選考について
2 平成 5 年度学生用図書購入費配分 (案) について
3 平成 5 年度参考図書購入費配分 (案) について
4 平成 5 年度教養図書購入費配分 (案) について



『人 事 往 来』

	氏 名	新 官 職	旧 官 職	発 令
退職	杉 下 寛 子		学 術 情 報 係	平成 5. 3. 19
"	瀧 山 奈美江		情 報 サ ー ビ ス 主 任	平成 5. 3. 31
転任	北 村 武 夫	事 務 部 長	群大図書館管理課長	平成 5. 4. 1
"	折 原 善 彦	学 術 情 報 係 長	鳴教大図書課整理係長	"
転出	杉 尾 勝 茂	横国大図書館事務部長	事 務 部 長	"
"	杉 友 友 子	鳴教大図書課目録情報係長	図 書 情 報 主 任	"
配置換	元 山 光 代	情 報 サ ー ビ ス 係 長	学 術 情 報 係 長	"
"	西 村 真 治	総 務 係	分館資料情報係	"
"	槌 谷 直 美	総 務 係	医 療 短 大 学 務 係	"
"	前 田 あつこ	図 書 情 報 係	分館情報調査係	"
"	岩 森 清 澄	分館資料情報係	工 学 部 会 計 係	"
"	日 高 奈三江	情 報 サ ー ビ ス 係	図 書 情 報 係	"
"	杉 本 和 代	雑 誌 情 報 係	分館情報サービス係	"
"	鎌 田 智 美	分館資料情報係	雑 誌 情 報 係	"
"	藤 田 洋 子	分館情報サービス係	分館資料情報係	"
"	高 内 さよ子	薬 学 部 庶 務 主 任	総 務 主 任	"
"	坂 本 和 也	庶務部企画室企画調査係	総 務 係	"
採用	高 田 恵美子	図 書 情 報 係		"
"	小 松 美 樹	学 術 情 報 係		"
"	上 原 佐知子	分館情報調査係		"
任期満了	後 藤 健 次		図 書 館 長	平成 5. 7. 31
"	山 下 卓 哉		蔵 本 分 館 長	"
併任	井 上 秀 夫	図 書 館 長		平成 5. 8. 1
"	森 田 雄 介	蔵 本 分 館 長		"
配置換	藤 井 トシ子	学 術 情 報 係	学生部厚生課体育保健係	平成 5. 10. 1
"	小 倉 郁 子	分館資料情報係	経 理 部 主 計 課 総 務 係	"
"	秦 久 子	学生部厚生課体育保健係	分館資料情報係	"
"	山 本 鈴 子	医学部医事課外来係	学 術 情 報 係	"

編集委員会：委員長・井上秀夫 委員・林 良夫，小野徳郎

発行 徳島大学附属図書館

(〒770) 徳島市南常三島町2丁目1番地 徳島(0886)23-2310 内線(6111)

FAX 附属図書館(本館)(0886)55-9593 蔵本分館(0886)33-2950